

すぐに使える学校情報

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について②（社会） ～平成30年度鹿児島学習定着度調査の結果から～

義務教育課

小学校

平成31年1月に実施した鹿児島学習定着度調査の結果では、小5社会科の平均通過率は72.9%であり、このうち「基礎・基本」の問題については、79.8%、「思考・表現」の問題については58.1%という結果であり、概ね定着が図られています。

内容・領域別でみると、運輸・貿易に関する問題や農業・工業に関する問題が、また、観点別でみると、社会的な思考・判断・表現に関する問題の平均通過率が他の観点と比べて低く、特に食料生産と外国とのつながりや、自動車の生産と人々の工夫など問題の平均通過率が低くなっています。

今後、運輸・貿易、農業・工業に関して学習する際、その職業に従事する人々の努力や工夫について、自分の考えを表現できるように、文章で書いたり、発表したりする活動を取り入れましょう。

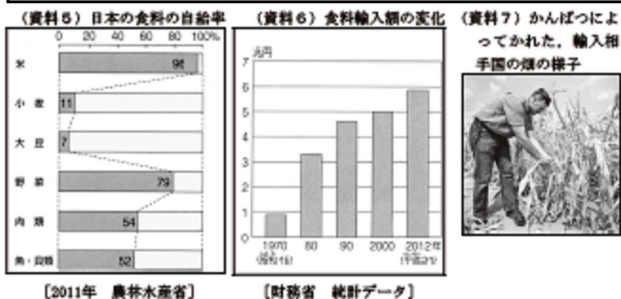
また、地図やグラフ等の資料を用いて事象を明らかにする活動を重視するとともに、自分の考えをまとめたり、グループで話し合ったりする活動に取り組んでいく必要があります。

■特徴ある問題から

3(3) 食料生産と外国との関わり

資料5は、日本の主な食料の自給率を示しています。また、資料6からは、日本の食料輸入額の変化の様子が分かります。

食料の自給率が低いとどのような問題が考えられるか、資料7を参考に、「輸入相手国」という言葉を使って説明しましょう。



平均通過率…41.1%
無解答率…9.5%

解答例

輸入相手国が不作であった時に、十分な食料が手に入らなくなる可能性がある。

■「新学習指導要領解説（社会編）」から

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 省略

※ 下線の種類

~~~~~ 知識・技能に関わる部分

———— 思考力、判断力、表現力等に関わる部分

## ■授業改善のポイント（「学びの羅針盤」から）

○ 働かせたい社会的な見方・考え方を明確にした授業の構成

「何を考えさせるのか」、そのために「何を調べるのか」、そしてその結果「どのような見方・考え方を働かせるのか」を明確にして授業を構成しましょう。

○ 予想を立てる場面や振り返りの場面での子供の思考の深化

予想を立てる場面は、それぞれの知識や既習事項が生かされる重要な思考場面です。

振り返る場面は、「つまり何が分かったか」「めあてをどのように実現したか」を整理する場面です。特に、振り返る場面では書く活動を効果的に導入しましょう。

○ 社会的事象に対する自分の考えを書く活動の効果的な設定

各自で課題を追究する場面や振り返りの場面などで、書く活動を取り入れましょう。

この際、理由や根拠を基に記述させることで、思考が深まります。

## 中学校

平成31年1月に実施した鹿児島学習定着度調査の結果では、中1社会科の平均通過率は62.2%で、このうち「基礎・基本」の問題は68.8%、「思考・表現」の問題は46.5%でした。中2社会科では平均通過率51.2%で、「基礎・基本」の問題は54.9%、「思考・表現」の問題は42.6%でした。

内容・領域別に見ると、中1では世界の諸地域に関する問題、中2では日本の地域構成に関する問題の平均通過率が低くなっています。また、観点別に見ると社会的な思考・判断・表現に関する問題の平均通過率が他の観点と比べて低く、既習事項と資料等を関連付け説明する問題において平均通過率が低くなっています。

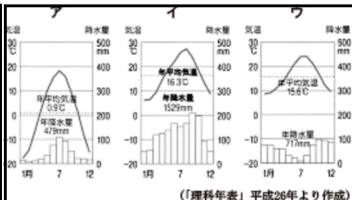
今後、選択・判断した根拠や理由を明確にし、考えをまとめる活動や、定期考査等でかごしま学力向上支援Webシステムに掲載している単元別評価問題等を活用するなどの取組を充実させるとともに、複数の資料（写真、グラフ、表等）を活用して、社会的な事象を多角的・多面的に捉えられるよう、比較・関連付けを意識した授業改善に取り組んでいきましょう。

### ■特徴ある問題から

中1 2 (3) 世界各地の人々の生活と環境

右のア～ウの気温と降水量のグラフは、地図中の●の三つの都市のものである。イルクーツク（ロシア）のグラフはどれか。あてはまるものをア～ウから一つ選び、記号で答えよ。

また、写真1のように、イルクーツクでは多くの建物が高床になっている。なぜ、このように高床の建物になっているのか説明せよ。



平均通過率…41.1%  
無解答率…9.5%

### ◇重点課題と同一問題を出題

例年、課題となっている世界の気候に関する問題について、改善状況を確認するため2学期に重点課題として問題を実施。

(平均正答率…50.2%)

### ■「新学習指導要領解説（社会編）」から

○ 「位置」や「分布」について

多面的な性質をもつ社会的な事象の中から、位置や分布に関わる事象は地理的分野の主要な学習対象となる。「それはどこに位置するのか、それはどのように分布するのか」という問いは、事象の所在を問う、地理学習において欠かすことができない問いである。

例えば、「どのような位置関係にあるのか」という問いは、位置の規則性を見いだすことにもなり、「なぜそこに位置するのか」、「なぜそのような分布の規則性、傾向性を示すのか」という問いに発展するなど深い学びに結び付くものと考えられます。

○ 「人間と自然環境との相互依存関係」について

「そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか」、「そこでの生活は、周囲の自然環境にどのような影響を与えているか」、そうした問いから明らかになるのは、人々の生活と自然環境との密接な関わりである。人々の生活は自然からの制約を受けることで、それに対応して伝統的な生活様式を確立してきたし、それに対応して生活に関わる技術を発展させてきた。

一方で、人々は自然環境に働きかけ、自然環境を改変するなどして自然環境に影響を与えてもきた。それらの関わりについて「なぜそのような影響を受けているのか」、「なぜそのような影響を与えているのか」を考えることは「どのような自然の恩恵を求めるのか」、「どのように自然に働きかけるのか」など、人間と自然環境との関係について考える出発点となる。人間と自然環境との相互依存関係について考えることは、地域的特色を理解したり、地域の環境開発や環境保全を考えたりする際の重要な基礎となります。

### ■授業改善のポイント

(「H30鹿児島学習定着度調査結果報告書」から)

○ 複数の資料から内容を読み取り、その内容を自分の言葉で表現する活動を行いましょう。

○ 着目する視点を明確にし、課題を追究したり解決したりする活動を行いましょう。

児童生徒質問紙の結果から、特に中学校では、先生の説明を聞く活動が中心であり、互いに発表したり、説明したりする活動が少ない傾向にあります。社会的な事象の比較・関連付け・順位付けなど、目的を明確にし、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組みましょう。